

合併による地方 財政措置について



問

幕別町と忠類村が合併して2年目を迎える。

合併効果に地方財政措置があるが、具体的な数字が分かり難く、町民から「合併したのに随分普通交付税が減るね」と声が出る。そこで、以下について伺う。

①平成19年度普通交付税は△5・3%と大きな減額となった。減額となった要因をどのように分析されているのか伺う。また、平成20年度の見通しを伺う。

②平成18年度特別交付税はプラス18・6%（約4億8千万円）であり、私は満足する増額と思っていない。

平成19年度の特別交付税の見通しを伺う。

③合併協議会では、平成17年度から平成33年度に歳入において、40億3400万円の合併効果があると推計していたが、現在どのような財政シミュレーションしているか伺う。

町長

①本年度の普通交

付税算定は大幅な制度改正により、算定費目ごとに前年度と単純比較はできないが、実質的な内容面の増減の要因は、旧地域総合整備事業債の交付税措置期間の終了により、1億9,800万円の減や、新型交付税の人口と面積を基本とした包括算定経費で、約1億円の減になる。頑張る地方応援プログラムに係る算定では、3,300万円が措置された。成果指標の中の一つである、行革の実績を示す指標に取り入れられる割り増し分は、平成14年度と平成17年度を比較し、行革実績が一定の基準以上の場合、算定経費が上乘せされるが、国営土地改良事業に係る償還金の取り扱いが、平成17年度から変更になったことが影響し、行革実績の指標が少なく積算され、本来、算入されるべき割増分の約3,400万円がゼロ査定された。この扱いの

変更は納得し難い面があり、北海道庁に出向いた際、取り扱いについて検討をお願いした。

平成20年度の普通交付税の見通しは、国の予算や地方財政計画が未確定であるため推計が難しい。

②現時点で、明確な見通しを立てることは非常に困難である。平成19年度当初算では、特別交付税4億円を

見込んでいる。内訳として、合併に伴う包括算入分、約1億2千万円、通常ベース分として約2億8千万円を見込んでいる。

③平成32年度にならないと、実際の比較はできないが、実績から推計すると、合併協議会で推計した歳入の合併効果額は予定通り推移している。

仮称「道の駅 ふれあいの郷まぐべつ」の実現に向けて

問

休憩機能、情報発信機能、地域との連携機能を備えた道の駅が、国道38号線沿いにあれば、

これまで立ち止まらなかったドライバーが集える場所となり、観光や産業などの地域経済の活性化に繋がるものと考えている。町内経済団体を中心に仮称「道の駅 ふれあいの郷まぐべつ」の実現に向け強い要望があるが、考えを伺う。いつまでに結論を出すのか。

町長

幕別町総合公園ス

マイルパークの土地利用に関してと題した道の駅建設の要望書が幕別町物産協会

から提出され、現在内部で協議をしている。運営主体や運営方法等課題があり、多くの方の意見を聞き対応したい。

過去、百年記念ホール建設時、マイルパークに物産館を兼ねた道の駅的なものを作つてはという話があった。十勝管内の道の駅の状況を見ると、どこも厳しい運営を強いられている。管理運営の見通しが立たなければ現状では難しいと考えている。

内部協議と合わせて観光物産協会とも相談し、年内には結論を出せるよう努力したい。



道の駅建設の要望があるスマイルパーク